

大学と家庭をむすぶ

GROWTH

後援会通信
グロース
vol.37
2020
AUTUMN



特集

ニュー・ノーマル

新しい日常、そして新しい学びのかたち。



 東北学院大学

土樋
キャンパス
〔大学院〕文学研究科／経済学研究科／
経営学研究科／法学研究科
〔学部〕文学部・経済学部・経営学部・
法学部（各3・4年）
〒980-8511 仙台市青葉区土樋1丁目3-1
TEL 022-264-6421（総務課）
E-mail kouenkai@mail.tohoku-gakuin.ac.jp
FAX 022-264-3030（ ）

多賀城
キャンパス
〔大学院〕工学研究科
〔学部〕工学部
〒985-8537 多賀城市中央1丁目13-1
TEL 022-368-1116（庶務係）
FAX 022-368-7070（ ）

泉
キャンパス
〔大学院〕人間情報学研究科
〔学部〕文学部・経済学部・経営学部・
法学部（各1・2年）／教養学部
〒981-3193 仙台市泉区天神沢2丁目1-1
TEL 022-375-1121（庶務係）
FAX 022-375-4040（ ）

東北学院大学後援会通信GROWTH(グロース)vol.37

発行日／2020年10月
編集／東北学院大学後援会事務局（総務部総務課内）
発行／東北学院大学後援会
〒980-8511 仙台市青葉区土樋1丁目3-1 TEL 022-264-6411 FAX 022-264-3030
E-mail kouenkai@mail.tohoku-gakuin.ac.jp URL https://www.tgu-kouenkai.org/
制作／Hi creative inc.

GROWTH(グロース)の意味は、「成長する」です。聖書には、「どんな種より小さいのに、成長するとどの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる」(マタイによる福音書第13章32節)、また、「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です」(コリントの信徒への手紙一第3章6節)と記されています。東北学院大学の学生の皆さんが各分野において、知識や技術、教養を十分に修め、神と共に祝されつつ大きく成長するという期待が本紙に込められています。

【本紙における個人情報及び掲載記事の取り扱いについて】
本紙に掲載されている個人情報は、本人の了解のもとで本紙に限り公開しているものです。よって、第三者がそれらの個人情報を別の目的で利用することや、本紙の無断転載はお断りしております。

■本紙に関するご意見・ご要望をお待ちしております。

 東北学院大学

<https://www.tgu-kouenkai.org/>



特集 在学生・保護者との学長対談

ニュー・ノーマル

“新しい日常”、 そして新しい学びのかたち。

～コロナ禍における、教育の「機会」と「質」の保証に向けて～

世界に沈黙と停滞を強いた新型コロナウイルス感染症。

これから私たちはリスクと向き合いながら、

少しずつ従前の社会や暮らしに近づける試みを進めていくことになります。

本学においても、安全に安心して学べる環境づくりと、

新しい学業・研究スタイルの構築が始まっています。

今回の座談会では、それぞれの立場で経験した“コロナ禍”を共有し、

これからの展望を支える「経験知」にしていきたいと思えます。（大西学長）

多くの若者が集まる、密な環境=教育の現場。
真っ先に様々な制限と困難に直面しました。（大西学長）

大西晴樹学長（以下：大西）：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の広がりによって、私たちの暮らしは大きく様変わりしました。中でも教育の現場（特に大学）は、多くの若者が集い、“密な”環境のなかで行われるという特性上、様々な制限や困難に直面しています。教育・研究の場で、どのような問題が持ち上がり、またそれらに対処していったのか…そうした体験を共有し、未来への「経験知」として蓄積させていくことも必要だと考えています。

本日は保護者を代表して鈴木恭子さん（本学後援会理事）、法学部法律学科4年の前川香織さん、工学部電気電子工学科4年の品田裕汰さんにお越しいただきました。それぞれの立場からコロナ禍における出来事や課題をお話しいただきたいと思えます。座談会の会場では、窓を開けて室内の換気を行い、ソーシャルディスタンスを保って着席し、全員がマスクを着用しています。

学生にとっての大きな変化といえば、キャンパスに来ることが叶わず、授業がオンライン（リモート）になったことでしょうか。品田さんはスムーズに移行できましたか？

品田裕汰さん（以下：品田）：オンライン授業が本格的に実施されたのは、5月の連休明けからでしたが、その前にトライアルの期間が設けられ、各自でアプリ（遠隔会議システム「Zoom」のアプリケーション）の準備をしたり、通信環境を整えたりしました。

アプリは使い勝手がよく、特に問題はありませんでした。ただ、当初「オンタイム授業」*1でアップロードされる資料が、「オンデマンド授業」*2の時のようにある程度の期間見られるものと勘違いしてしまい、資料をプリントアウトし損なうという失敗がありました。テストに出そうな要点がまとめられた重要なプリントだったので、慌てて友だちに連絡をして手に入れました（笑）。

大西：幸いにも本学のシステムは堅牢で、他大学のようにサーバーがダウンするようなことはありませんでしたが、初めて尽くしのことが短期間に展開されたこともあり、混乱があったことも確かです。学内では、ITを熟知した教員が中心となり、「遠隔授業実施サポートチーム」を編成し、学生への指導・支援を行いました。リモート授業に向けて、パソコンやインターネット環境を整えてくださった保護者の皆様、学生に感謝申し上げます。また、授業コンテンツの受信環境が十分ではない学生に対しては、ノートパソコンやWi-Fiモバイルルーターの貸し出しも実施しています。個々人が携帯用機器を保有し持ち歩いて、学校や職場で使用することをBYOD（Bring your own device、ビー・ワイ・オー・ディ）と呼ばれるそうですが、それがコロナ禍で加速されたように思えますね。

鈴木さんのお子さんは、今年入学されたのですね。

※1 オンタイム授業は、遠隔会議システム「Zoom」と教育支援サービス「manaba」を用いて授業を行う同時双方向型の授業である。時間通りに実施し、出席を取る。
※2 オンデマンド授業は、「manaba」などを用いて講義映像、資料等を配信し、課題に取り組む形式の授業である。毎週、時間割のタイミングに合わせて教材を配信する。授業日から6日（授業によっては3～5日）以内に受講し、課題を提出することで出席扱いとなる。

思い描いていたキラキラとしたキャンパスライフが霧散し、 落胆のなかにいる子どもが気の毒です。(鈴木さん)

鈴木恭子さん(以下:鈴木):はい、娘は教養学部地域構想学科で学んでいます。こうした状況下なので、致し方ないのですが、高校の卒業式も簡素化され、大学の入学式も出席できなかったことは、とても残念なことでした。本人は“キラキラ”としたキャンパスライフを思い描いていたようなのですが、“当然あると思っていたことが、ない”ことになり気落ちをしている様子です。期待が大きかった分、落胆も小さくなく、はたから見てもかわいそうなほどです。

オンライン授業のほうは、アプリを接続するといった技術的なハードルはないようですが、例えばオンデマンド授業の開始時間になっても講義資料や動画が配信されず、なかなか始まらない、また「manaba」にて質問をしたのに返答がなかった、ということもあったようです。本来ならば情報を交換できるクラスメートとも知り合っていないし、確かめる術がないと困っているようでした。

大西:ご指摘のように、教え導く側がシステムの操作などに不慣れで受講生に混乱を生じさせるといった反省すべき点もありました。遠隔授業実施サポートチームでは、教員に対してオンライン授業を改善し、向上させていくための組織的な取り組み(ファカルティ・ディベロップメント、Faculty Development, FD)を導入し、勉強会を開催したり積極的な情報共有を図っています。「教育の機会と質の保証」のために、今も教職員の試行錯誤が続いてい

ます。コロナ禍の大学生活という点では、学部1年生の状況が最も気がかりでした。

鈴木:私の子どもは自宅生なので親として目を配ったりケアもできたりしますが、親元を離れてアパートや寮で暮らし始めた新入生はより多くの不安や心配を抱えているのではないかと思います。胸が詰まります。

大西:本来であれば、4月当初には前川さんが常任委員を務めておられる「学生会」が中心になって、新入生を迎えていたのだよね。

前川香織さん(以下:前川):はい、仙台近郊のホテルや旅館に泊まり込みで行われる新入生歓迎の行事、オリエンテーションキャンプがあります。1960年から続いている本学の伝統ですが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりました。ここで先輩(オリエンテーションリーダー)から高校とは違う勉強の進め方や学生生活の心得を聞いたり、いろいろな地域や高校から集まってきた同級生と交流したり、キャンプの期間中に友だちをつくるという学生も多いので新入生の皆さんにとっては大変残念だと思います。

今年、学生会の活動はほとんどが中止を余儀なくされ、在学生にとっても新入部員の勧誘活動ができず心苦しい思いでした。

先輩から後輩へと伝えられる情報や知識。 それは学生生活を支える貴重な知恵でもあるのです。(前川さん)

大西:これからの私たちは、人と人との間に物理的な距離を取り、密接な接触を遠ざけながら、社会的・経済的・文化的な活動を果たしていくという二律背反のなかに生きなくてはなりません。本学では後期授業(9月17日開始)より対面授業と遠隔授業を組み合わせて実施することになりました。キャンパスの規模ごとに、一日あたりの入構者数上限を決め、50名以上の授業は原則オンラインとなります。懸案となっていた1年生に対しては、後期新入生オリエンテーションを遠隔で開催しました(9月14日~9月16日)。オンラインゲームなどを通じて、先輩や友人との出会いと連携を育んでもらえるような工夫をしています。

前川:私たちは学生会やサークルといった場を通じて、先輩から後輩へいろいろな情報を伝承していきます。例えば先生の指導方針や、学業とアルバイトの両立といった、明文化されない知識

が交換されます。それは学生生活を支える貴重な知恵でもあると思います。

大西:「あの先生はレポートが多いよ」という情報は確かに有用ですね(笑)。先輩から後輩へと伝えられるものが、学風を形成し、伝統として引き継がれていくのでしょうか。

対面授業再開にあたっては、後援会から学生に対して一律5,000円相当の学生生活負担軽減策の実施やアルコール消毒液やマスクの配付、検温用サーモカメラの導入といったご支援をいただいております(学生支援の詳細は7ページをご覧ください)。

4年生の前川さんと品田さんは、すでに就職先の内定を獲得されているようですが、今年の就職活動は例年とは大きく異なりましたよね。

採用試験も対面からリモートへ。 学生側だけではなく、企業も混乱していたようでした。(品田さん)

品田:私は1社に絞って就職活動に取り組んできました。就職試験はメールで提出する作文とWeb上で受ける適性検査、そしてオンライン面接でした。面接は大学で使っているアプリではなく、志望する企業が独自に導入している遠隔会議システムでしたが、先方のほうで音声聞き取れないような不具合があり、結局、電話で回答するという方法がとられました。学生側だけではなく、企業のほうでも少し混乱があったのかなと思っています。

大西:今後は、様々な遠隔会議システムの使い方やWeb面接のテクニック、また回線接続が途切れた時の対処の仕方など、新しい就職指導が必要になりますね。今や社会人の常識として、オンラインミーティングのマナーも求められています。これも「ニュー・ノーマル(新常态)」、新しい生活様式の一つといえるのでしょうか。



工学部 電気電子工学科 4年
品田 裕汰
SHINADA Yuta

「前期は、後期から取り組む研究に向け、英文の論文(先行研究)を輪読する授業が中心でした。9月からは大学院生である先輩の指導の下、卒業研究に入ります。就職後は東北・新潟の各地に配属されると思います。地元が好きな自分としては少し寂しいですが、新天地で頑張ります」



法学部 法律学科 4年
前川 香織
MAEKAWA Kaori

「幸いにも私の周囲には、コロナ禍による経済的な影響により、学業を断念せざるを得ないというような友人はいませんが、きっとそのような状況に陥っている学生もいるはず。本当に困っている人たちに支援が行き届くような仕組みと、その情報の発信をお願いしたいです」

前川:私は志望する企業から無事内定をいただきましたが、今後の経済状況によっては、来年度の採用を手控えるという会社も出てくるのではないのでしょうか。現3年生の就活のほうが大変になるのではないかと心配しています。採用試験もWebを通じて行う企業が主流とはいえ、最終面接は対面というケースもありますから、遠方の場合は交通費なども必要になります。一方で、アルバイトの就労機会も減っているの、なかなか経済的に苦しいと思います。

大西:コロナ禍のなかで進められる教育・研究やキャリアサポート、学生支援…そうした取り組みを貫くテーマが「一人の学生も迷うことなく」です。これは「マタイによる福音書 第18章12

～14節」に登場する“迷える羊のたとえ”を引いたもので、小さく弱き存在(真に困窮している学生)に特に目を配りながら導きの手を差し伸べようというものです。このたとえは私が先鞭をつけて提唱したわけではなく、学部長を中心に唱えられ始めたものです。ここに私は東北学院に脈打つ深く重厚なキリスト教精神をみるのです。

前川さんが危惧される就職に関しては、仙台学長会議の中で私が発議し、「新規卒卒者採用支援緊急要望書」を県内経済5団体、宮城県、仙台市、宮城労働局へ提出しています。今後も同様の取り組みを続けていく方針です。人材は企業活動を支える人材でもありますから、長い目で考えていただけることを願っています。

「ウィズ・コロナ」の時代。

自分たちなりの青春のかたちを見つけてほしい。(鈴木さん)

大西:後期授業は、対面方式と遠隔方式を組み合わせたハイブリット授業によって始動し、私たちは「ウィズ・コロナ」の実践に入っていきます。前川さん、品田さん、卒業までの目標を教えてください。

品田:普通に卒業することです(笑)。私は入学前から国家資格である電気主任技術者の取得を目標にしてきました。これは技術職として採用された就職先でも必須の資格です。電気電子工学科を卒業して(在学中に所定の科目を履修することが条件)、就職後に実務経験を経ることでこの免状が取得できます。長期休

暇期間以外はアルバイトもせず、単位を充足させることを学生生活の最優先課題にしてがんばってきたので、とにかくしっかりと卒業証書を手にしたいですね。また、私は1年生から学生寮で寮生活を送ってきましたが、閉舎が解かれて戻れるので、コロナ対策をしながら卒業までの日々を過ごしたいです。

大西:学生寮では、二人部屋だったところは個室に、そして手指洗浄・消毒はもとより定期的な検温、ソーシャルディスタンスなどを取り入れます。感染症対策に最大限考慮しながら運営していきます。

前川:残りの大学生活の目標、私は3つあります。一つは品田さんと同じく普通に卒業すること、そして二つ目は生活のリズム

を整えることです。オンデマンドの授業は好きな時間に見られるので夜型のライフスタイルになってしまいがちでした。社会人になるにあたって改めなければと思っています。三つ目は学生会の活動をやりとげることですね。コロナ禍でも学生会の理念と精神を途絶させることなく、しっかりと後輩に託したいと思っています。

大西:鈴木さんは大学生活についてお子さんとどんなお話をされていますか？

鈴木:親としては、家で課題に追われている姿をみて、これが学生の本分だと思う一方で、やはりキャンパスという学びの庭で、

リアルに体験し、新しい知識や異なる意見と出会ってほしいと願っています。オンライン授業でパソコン画面の隣に映っているクラスメートとは交流のしようがないですから。授業も対面だからこそ体感できる教授の熱量、空気感、学びへの情熱があるのではないのでしょうか。とはいえ、新型コロナウイルス感染症との闘い、あるいは共存の道を探る途上であることは十分に理解できます。ですから娘には「これまでのキャンパスライフは過去のもの。あなたたちはあなたたちなりの青春のかたちを見つけてほしい」と言っています。少し厳しいかもしれませんが、現実と向き合い、新しい道をつくる時代に生きていと理解してほしいと思います。

経験のない未来を語る。「ポスト・コロナ」は、

今、私たちがどのように乗り越えるか、にかかっています。(大西学長)

大西:鈴木さんのお話はとても示唆に満ちていますね。確かに私たちは今、誰もが暗中模索しています。コロナ禍では人間としての活動が制限されるというネガティブなことばかりが数え上げられますが、一方でオンライン授業などは遠くにいながらにして最新の知に触れる…つまり学びのチャンスと可能性を広げたとはいえます。大学は、人生100年時代の学び直しに応える器でしたが、今後はさらに進化して参ります。また、DX(デジタルトランスフォーメーション:ITの活用を通じて、ビジネスモデルや組織を変革すること)が進展したというのも、ポジティブな側面の一つですね。

私たちに問われているのは、この災禍をどう乗り越えるかだけでなく、乗り越えた先にある風景に思いを至らせること

でしょう。社会や暮らしはきっとこれまでと違う姿になる。しかし、それを少しでも望ましいものにしていくためには、乗り越え方——つまり、災禍の真っ只中にある私たち一人ひとりの自覚と行動にかかっていると私は考えるのです。

新型コロナウイルス感染症は、確かに大きな脅威ですが、これまでも人類は英知と努力で様々な困難に打ち克ってきました。私たち教職員も思索と科学の力で、「ポスト・コロナ」を先見していきたくと思っています。



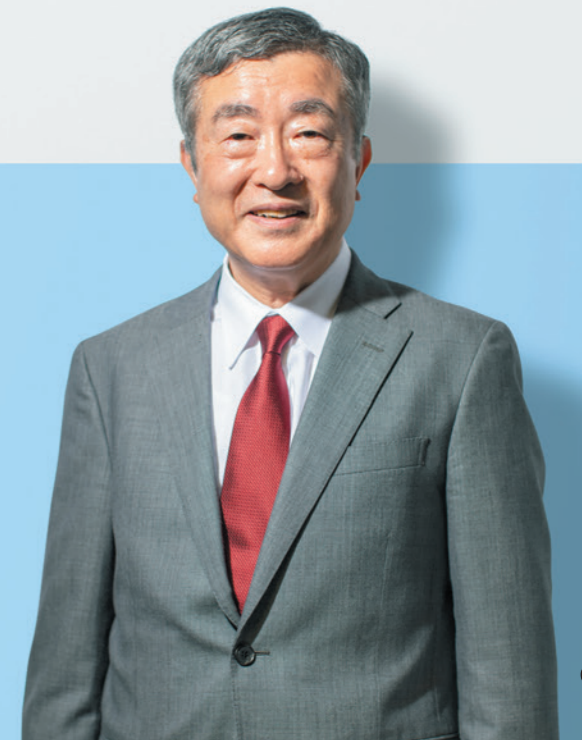
保護者(本学後援会理事)
鈴木 恭子
SUZUKI Kyoko

「小中高は学校が再開されているのに、大学はどうして…という議論がありますが、特に1年生は大学生活の出鼻をくじかれた感じになりましたから、手厚いケアを希望します。娘はサークルに入って、新しい友人を見つけ、先輩と交流することを楽しみにしているようです。早く叶えてあげたいですね」

学長
大西 晴樹
ONISHI Haruki

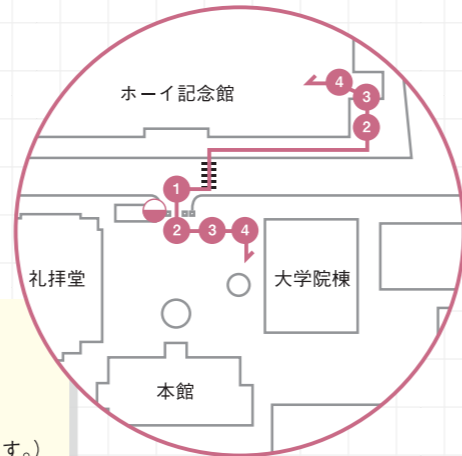
「コロナ禍のなかにあっても、図書館や情報処理センター、Wi-Fi環境を利用できる教室を提供するなど、大学の施設利用を継続しつつ、今後も窓口での対面相談や電話、メール、遠隔会議システムを活用して、学生の声に寄り添ったキャンパスライフを提供していきます」

WEBで学長メッセージを公開中！



後期対面授業のための 東北学院大学入構ルール

入構の流れ:土樋キャンパスの場合 (泉、多賀城キャンパスでも同様)



1 大学到着
通学前にご自身の検温など健康チェックを。
マスク、学生証、スマートフォンの準備。
(正門とホーイ記念館の入口以外の門は全て閉鎖します。)



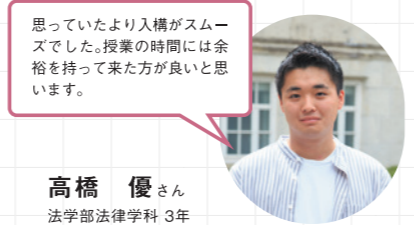
2 入構前セルフチェック
マスク未着用の場合は、入構不可です。
マスクガチャガチャを設置いたしましたので、
そちらで購入してください。



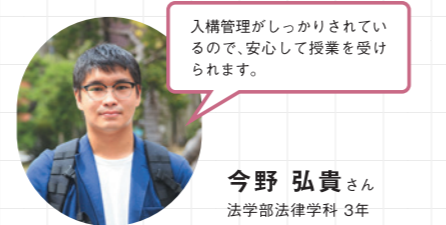
3 学生証、入構許可証の提示
入構時に学生証を提示してください。スマホ所持の場合は掲示板のQRコード
から入構手続きの申請をしてください。スマホ故障、所持していない場合は、
学生証リーダーもしくは台帳に記入します。



4 検温チェック
体温37.5度以上の場合は
入構不可です。
熱がある場合は、係員の指示に
したがってください。



学内入構
入構に時間がかかることが予想されますので、
予め時間に余裕を持った通学を心がけてください。



※入構ルールは状況に応じて変更になる場合があります。

後援会による学生生活支援(全在学生対象)

検温機材(サーモカメラ)の導入補助



大学生協の電子マネー(5,000円分)へチャージ、
消毒液・マスクの配付

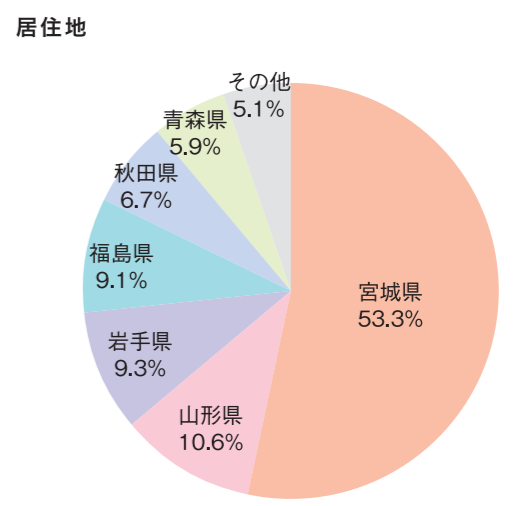
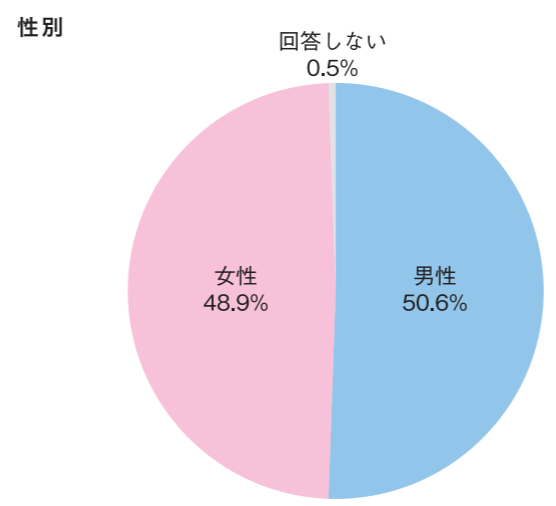


後援会保護者アンケート

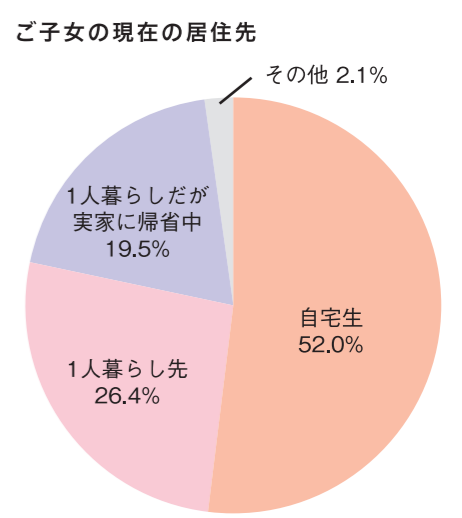
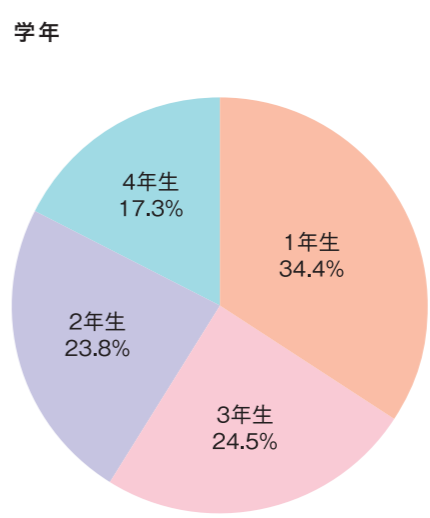
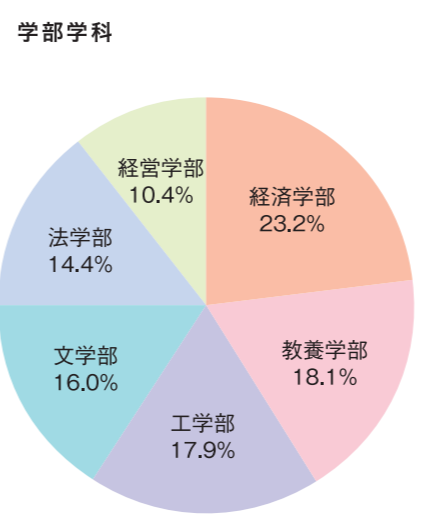
東北学院大学後援会では、保護者の皆さまからコロナ禍におけるご子女の学生生活や本後援会の事業について、アンケート調査を実施いたしました。
アンケート集計結果を以下のとおりご報告させていただきます。
大変貴重なご意見を賜り誠にありがとうございました。いただいたご意見は今後の後援会事業の参考にさせていただきます。

回答期間:2020年6月23日~2020年7月31日まで
回答方法:Googleフォーム(郵送にてアンケート回答を依頼)
回答数:375件(依頼数:11,043件)

アンケート回答者について

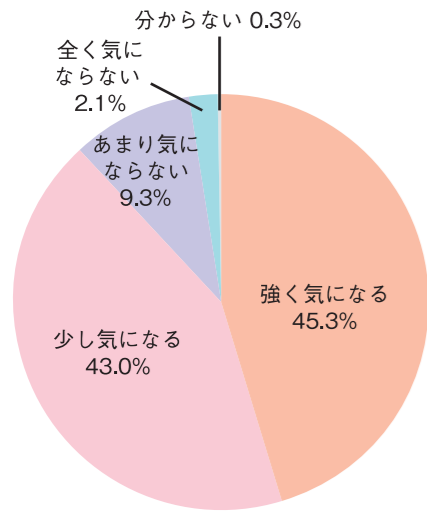


ご子女について

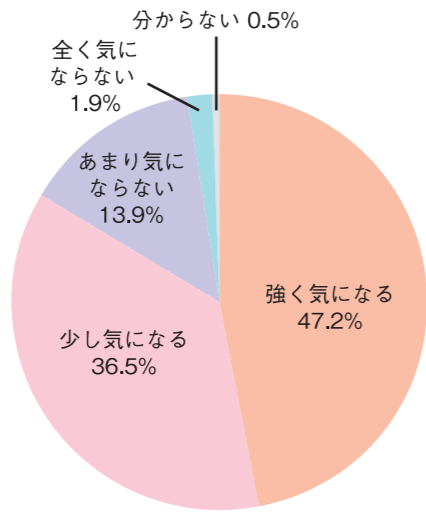


コロナ禍によるご子供の気になる点

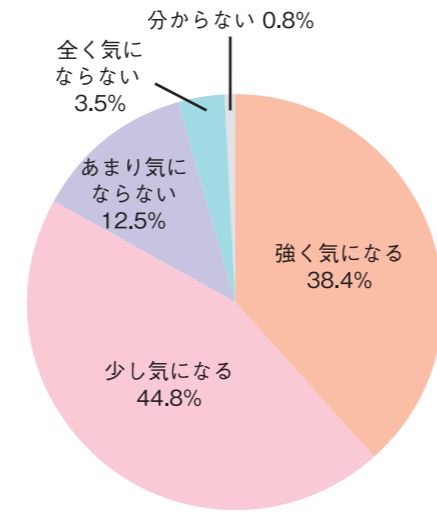
学業状況
(成績、履修状況など)



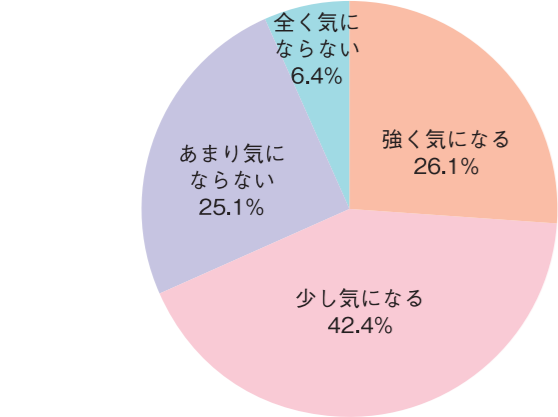
就職活動
(進路選択含む)



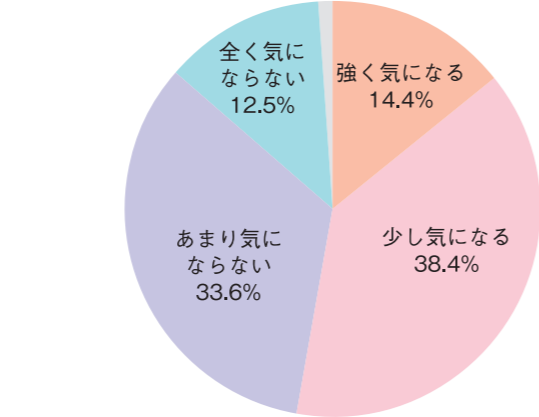
学生生活
(課外活動含む)



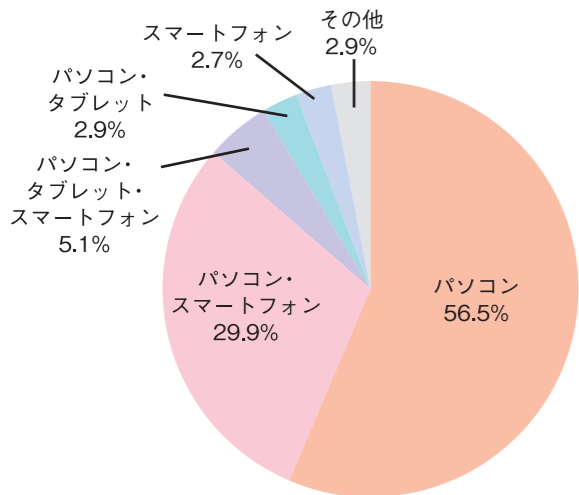
健康状態
(人間関係含む)



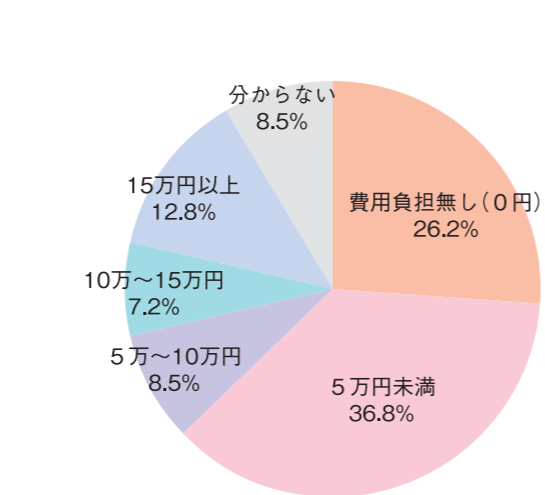
収入減による
学業の継続



ご子供が遠隔講義で使用している
情報機器(複数選択可)

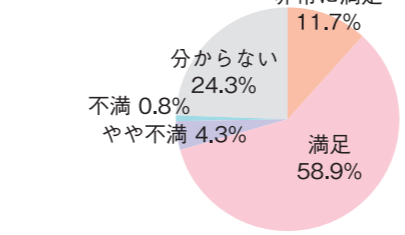


遠隔講義のために通信機器や通信環境(WI-FI)
整備等に対する現在までの負担額

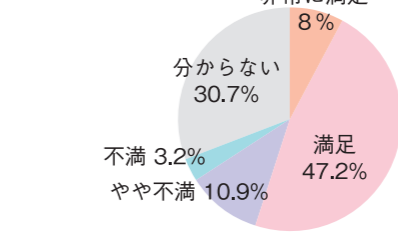


後援会事業に対する満足度

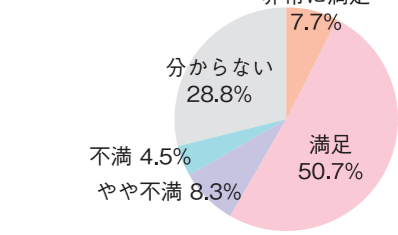
後援会総会(大学開放プログラム)、
地区後援会



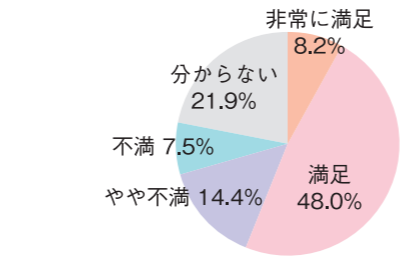
就職活動支援



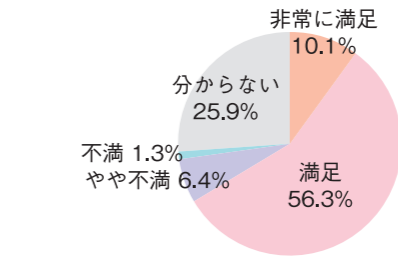
学業活動(課外活動)への助成



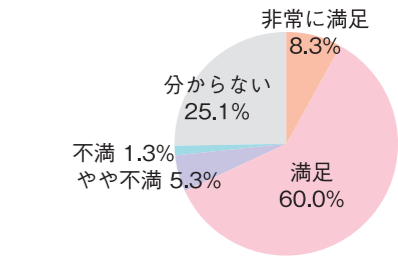
各種奨学金への助成



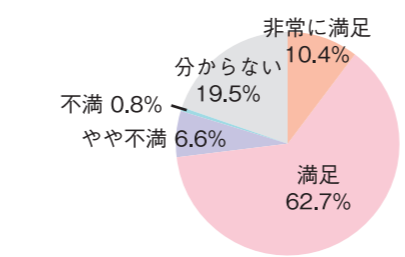
後援会資格取得報奨制度



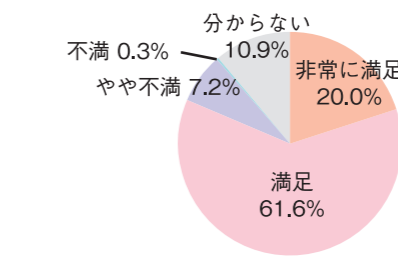
後援会ホームページ



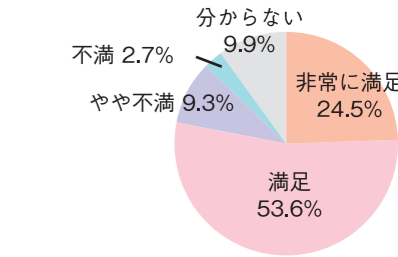
広報誌『グロース』



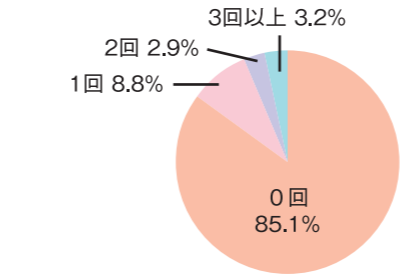
『保護者のための大学ガイド2020』



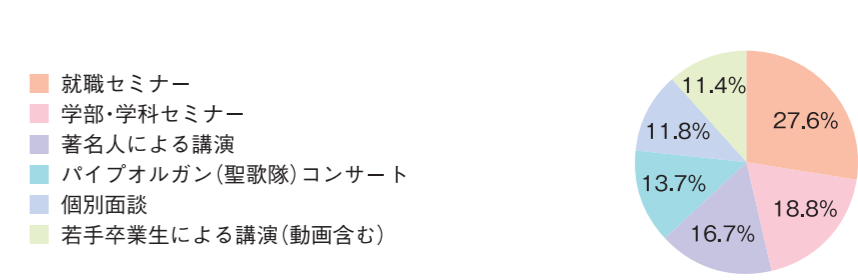
『後援会カレンダー』



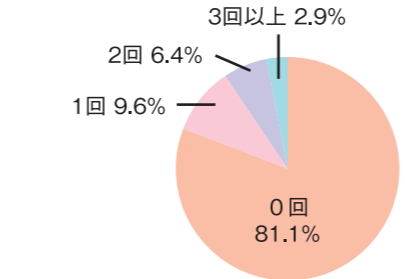
後援会総会(大学開放プログラム)
への出席回数



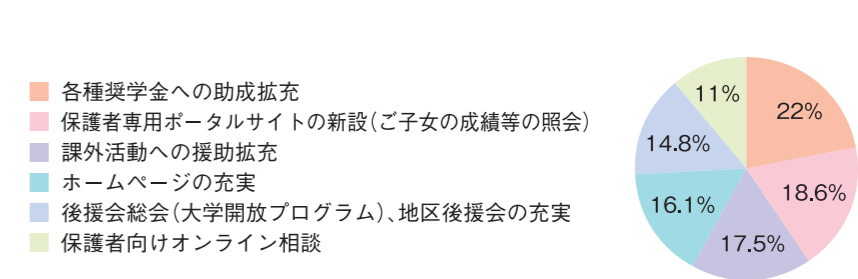
後援会総会(大学開放プログラム)、地区後援会で
関心のあるプログラム(1名につき3つ選択)



地区後援会への出席回数



今後の後援会事業に望むこと(1名につき3つ選択)

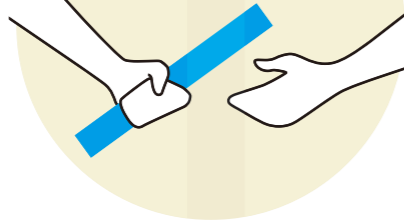




オリエンテーション
リーダーとして、
いまできることを。



Student's Relay
interview



まなまな
ぶらぶら
ただただ

新型コロナの時代に
新たなスタイルで
大学祭を開催します。



東北学院大学祭2020



■10/24(土)~10/25(日)
六軒丁祭[在学生限定]
■10/11(日)~10/25(日)
オンライン大学祭
<https://www.tgufes.com>



name: 児玉 瞳さん
class: 経営学部 経営学科
grade: 2

STUDENT'S VOICE
リーダーとしての私のニックネームはヒーちゃん。1年生の時、親身に相談に乗ってくれたアオちゃんとお会い、「自分もリーダーになりたい!」と考えるようになりました。

新入生に対して、入学早々に開催されるオリエンテーション行事のサポートをするのが、私たちオリエンテーションリーダーの役割です。私が担当する経営学部では新入生を6つのグループに分け、1グループ60人弱の新入生を2、3人のリーダーでサポートする体制を組み準備を進めてきました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、4月に開催予定であったオリエンテーション行事はすべて中止となってしまいましたが、その後も、学科やグループごとにさまざまな情報提供を行ってきました。9月には、後期新入生オリエンテーションをオンラインで実施しました。一堂に会し対面とはいきませんが、多くの新入生と交流を深めることができました。

私のイチオシ
カフェ巡りが趣味。
おしゃれなカフェでくつろいだり
ランチをしたり、というのが一番
のお気に入りです。学習塾の講師
のほか、カフェでのアルバイトも
しています。



name: 猪股 凌さん
class: 経済学部 経済学科
grade: 3

STUDENT'S VOICE
自分が引っ張るというより、みんなの声を聞きながら進路を決めていくというのが自分のスタイル。「大学祭とは?」という本質的なテーマをずっと問い続けてきました。

昨年は泉キャンパスの大学祭を統括する副委員長として活動し、台風19号の影響で1日目中止、2日目のみの開催というイレギュラーな大学祭運営を経験しました。これまでの活動を通して、大学祭を主催する私たちの思いと参加する側の思いにはギャップがあるということを感じていました。そのギャップを埋めることで、大学祭はもっといいものになるのではないかと。そんな思いを胸に、今は実行委員長として約100人の実行委員を束ねています。今年は新型コロナのため、開催自体が危ぶまれてきましたが、在学生限定の「六軒丁祭」を土樋キャンパスで、さらに2週間の期間限定で配信する「オンライン大学祭」の2本立てで開催する運びとなりました。例年とは異なるスタイルで、本学の魅力、学生の活気あふれる活動を伝えたいと思います。

私のイチオシ
実行委員会のジャンパー
背には「#swag」というメイン
テーマの文字。「やばい」「かっ
こいい」といった意味があり、
若者を中心に世界中で使われ
ています。



阿部 章さん
株式会社パルサー
代表取締役社長

2002年東北学院大学工学部機械工学科を卒業し、「いずれは起業を」という思いもあって横浜市の技術系ベンチャー企業に就職。2008年、父から事業承継を受け実質的な代表となる。社会人になったらできないことをしようと積極的に動いた学生時代、他大学と合同サークルの立ち上げ、バックパッカー、スノーボードの販売や飲食店でのアルバイトなどを経験。「流体力学の研究室で、自由と責任、権利と義務について先生と語り合えたことは、現在につながる財産です」。

「コロナ禍をビジネスチャンスに」

高まる無人化・セルフ化へのニーズ。
多種多様な自動販売機の提供で、新たな市場を創出したい。

事業を引き継いだ2008年はリーマンショックで景気が大きく後退した時期にあたる。券売機の保守メンテナンス契約を結んでいた大口顧客の倒産、さらには仕入れ先メーカーの券売機事業からの撤退も重なり、苦難の連続だったという。「そこで立ち上げたのが通販サイト「券売機JP」です。中古品を中心に展開することで競合他社と差別化し、徐々に顧客を増やすことができました」。

「券売機を介してお客様と接する中、多種多様な困りごとがあることに気付かされた」と話す阿部さん。顧客の困りごとを一つひとつ解決していく、そんな目線から生まれたのが写真POP付き券売機だ。文字情報のみだったメニューボタンに商品写真を付す、さらには行動心理学に基づきメニューボタンの配列を変えると

いった工夫によりお客様の売り上げ向上に貢献することができたという。

人口減少に伴う労働力不足を背景に、店舗などでの無人化・セルフ化へのニーズが高まっている。コロナ禍という新たな状況は、こうした動きをさらに加速させることだろう。「自動販売機には、無人化・セルフ化というニーズに応え、新たな市場を創出する可能性がある。課題先進地域の東北から、人の幸せのための機器とシステムを届けていきたいと思います」。



株式会社パルサー
■創業 1989年
■資本金 1,000万円
■所在地(本社)
〒981-3213
宮城県仙台市泉区南中山4丁目3-16
TEL.022-346-7511
<http://plsr.jp>

創業時の主要事業は自動販売機全般の販売・メンテナンス。その後、自動券売機に特化した各種サービスの提供を開始し、さらにデザイン事業・Web事業へと業務を拡大してきた。大切にしているのは、お客さんを中心に考え、それぞれの困りごとを一つひとつ丁寧に解決していくこと。2019年の売上額が10年前の約13倍というめざましい成長を遂げている。

コロナ後も見据えつつ、 学生にとってよりよい オンライン授業を模索。

稲垣 忠 研究室

文学部 教育学科

稲垣 忠 教授

関西大学大学院総合情報学研究所
博士課程後期課程修了。博士(情報学)。
東北学院大学教養学部人間科学専攻講師、准教授等を経て、
2018年より現職。
担当科目:ICT教育論、情報教育論、
メディア・リテラシー教育論、ほか



教育とテクノロジーのよりよい関係を探る。

小学校での英語教育スタートを前に、英語教育に秀でた小・中・高等学校の教員養成を目的として、2018年4月、文学部に教育学科が誕生しました。

本学科には、教育を学問的に探究する教育学のほか、英語の教員免許に関わる英語教育、小学校で扱われる全科目に対応した教科教育といった分野があります。教育工学を専門とする私は、教育学分野の中で、実際の学校現場ではどんな教育方法がとられているのか、教育改善のためにICTを含めどんな道具や手法が効果的か、といった研究テーマに取り組んでいます。

研究室には、教育学科1期生でもある3人の3年生が所属しています。生涯学習でのオンラインによるダンス指導の方法、ゲームを活用したプログラミング教育、学習者の特性に配慮したデジタル教科書のあり方など、切り口はそれぞれでも、テクノロジーへの関心が高いという点は3人に共通しているところです。新型コロナウイルスの感染拡大により、オンラインでのゼミ活動となっていますが、

少人数ゼミというメリットを生かし、一人ひとりの興味関心を把握した丁寧な指導を心がけています。いずれ卒業論文という形でそれぞれの研究をまとめ上げるため、現在の関心事をさらに深掘りし、そのテーマにはどんな価値や意義があるのかを明確にする、さらには、何らかの形で教育の現場と関わって実践的な論文をまとめてくれることを願っています。



遠隔授業で得た財産も生かして。

本学では、2020年度の前期の授業すべてを原則オンラインによる遠隔授業としました。遠隔授業には、教材や動画をWebにアップし学生が好きな時に受講するオンデマンド方式、リアルタイムで学生と教員をつなぎ授業を行うオンタイム方式があります。大規模な講義ではオンデマンド方式、ゼミや語学系の授業などコミュニケーションが重要な授業ではオンタイム方式をとっています。

学生はもちろん、私たち教員もまたオンライン授業は初めての経験で、試行錯誤しながらよりよい授業づくりに取り組んできました。教育におけるICT活用が研究テーマの一つである私は、現在、学長特別補佐としてオンライン授業の統括を担当しています。新たに誕生した「遠隔授業実施サポートチーム」の活動や教員研修を通して感じたのは、オンライン授業の取り組みを自身のこれまでの授業を見直すきっかけとし、遠隔授業の中でもできるだけ対面授業に近い教育価値を提供できるようにしたい、という教員一人ひとりの強い思いです。

今後は、対面授業が徐々に復活していく一方で、密を避ける

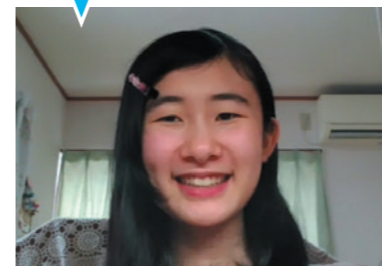
ため、遠隔授業がゼロになることもしばらくはないでしょう。Zoom^{*1}による双方向のコミュニケーション、manaba^{*2}での教材配信のノウハウなど、遠隔授業で得た財産も生かしつつ、学生のニーズに丁寧に対応していくことがさらに大切になると思います。



研究室からのオンライン授業

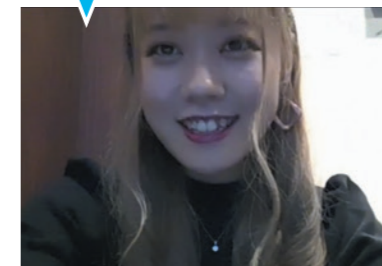
ゼミ生3人にオンライン授業の感想を聞きました

一人で集中して学習するというのが好きな私にとって、オンライン授業のスタイルは合っていたと思います。Zoom^{*1}の機能を使ったグループセッションで他の学生と交流できたのは新鮮でした。難点は、目が疲れることです。



プログラミング教育に興味あり
高橋 花奈 さん

パソコンを買うところからのスタートで、最初はとてもワクワクしました。すぐそばに仲間がいる対面授業なら、そこから受ける刺激、楽しさがあります。それがなかなか感じられないのがちょっと物足りないですね。



オンラインでのダンス指導法を探りたい
沼田 紗奈 さん

キャンパスとの往復にかかる移動時間が不要だという点は、オンライン授業のメリットだと思います。自宅ですべて受講できるオンデマンドの授業もあり、オンとオフの切り替えの大切さ、難しさを感じています。



デジタル教科書のあり方とは？
脇澤 裕介 さん

※1:遠隔会議システム「Zoom」

※2:教育支援サービス「manaba」(株)朝日ネット提供

WEBでオンライン授業
実施の様子を公開中！



夢のために
今できること

新入生の悩み・不安 解消します

萬 眞之介 さん
法学部 法律学科 1年

福野 光輝 教授
(教養学部 人間科学科)
学生総合保健支援センター
センター長

菊池 紗矢香 さん
教養学部 人間科学科 1年

東北学院大学では、学生向けの相談窓口として、土樋・泉・多賀城の3キャンパスに学生相談室を設置しています。今回は新入生2名をお招きし、相談室を運営する学生総合保健支援センターのセンター長・福野光輝教授と語り合っていました。新型コロナウイルスの感染拡大という状況のもと、新入生のみなさんはこの半年をどう過ごし、何を感じてきたのでしょうか。

生活リズムをしっかり確立し、 遠隔授業を充実したものに

福野:はじめまして。教養学部人間科学科の福野です。学生のみなさんの「よろず相談所」である学生相談室、障がいのある学生さんのみなさんをサポートする学生支援室、学生の健康管理を行う保健室を運営する学生総合保健支援センターでセンター長を務めています。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、1年生のみなさんは入学からの約半年キャンパスへの通学もかなわず、それぞれの自宅から遠隔で授業を受けていただく形になりました。はじめに、前期の半年間を振り返り、どんな感想をお持ちですか？

萬:遠隔授業についての話になりますが、対面授業と変わらない充実した授業がある一方で、いまだに顔のわからない先生もいるのは残念なところ。また、思いのほか課題が多いという印象を持ちました。

菊池:水泳部に所属しているのですが、そこでの同期や先輩たちとの交流はあるものの、学生と顔を合わせる機会がなく、同じ学科の友達はまだできていません。後期からは徐々に対面授業がスタートするという事なので期待しています。

福野:遠隔授業は私たち教員も初めての経験で、よりよい授業にするための努力をこれからも続けていかなければならないと考えています。遠隔授業には、Zoomを使って受講するオンタイム方式のものと、都合のよい時にいつでも受講できるオンデマンド方式の2つがありますが、スケジュール管理などはうまくできていますか？

菊池:オンデマンドの授業は、溜めてしまうと大変なので、課題も含めその日のうちに終わらせるようにしています。

萬:私も同様です。その日のことはその日のうちに終わらせてしまいたい性格なので…

福野:お二人はまったく問題ないようですが、学生さんの中にはなかなか学修の

ペースがつかめず難儀している人もいます。保護者の方からそうした相談が寄せられることもあり、そうした際には、昼夜が逆転してしまわないように、やはり規則正しい生活リズムをつくり、それを維持することが大切とアドバイスさせていただいています。先ほど菊池さんからもお話がありましたが、後期からは履修者数が50人以下の授業では対面授業も可能になります。大学としてもしっかり対策を立てていますが、学生さんのみなさんにも、3密の回避を励行していただきたいと思っています。

気分転換の方法を見つけ、 現在を乗り越えてほしい

福野:自分で時間割を組み履修登録を行うのは、お二人とも初めての経験だったと思います。そのための情報収集や疑問点の解消はどんなふうに行っていましたか？

萬:私は中学も高校も東北学院の出身で、バスケットボール部に所属していました。その関係で、日常的に連絡を取り合うことのできる仲間や先輩が身近に多くいます。何か疑問や不安があれば彼らに相談できるので、その点ではとても助かっています。

菊池:岩手県出身の私は、高校時代の知り合いが身近にはいません。とはいえ、水泳部の先輩や仲間たちがいるので、そこを主な情報源に、相談にも乗ってもらっています。

福野:お二人の場合は身近に仲間や先輩がいて、きっと心強いことだろうと思います。しかし、学生のみなさん、とりわけ新入生の中には新型コロナの影響で仲間づくりがうまくできず、孤立感から気が滅入りそうという人もいます。このように心や身体からSOSを感じたら、それをきちんと受け止めて、今の自分にできそうなところから、バランスをとりもどす工夫をしてみましょう。まずは、先ほど言ったように、決まった時間に食べ、決まった時間に寝るという規則正しい生活を送ることが大切です。さらに、音楽を聴いたり、映画を観たり、軽い運動をしたりといった自分に合った気分転換の方法をみつけて、実践してみましょう。ただ、一気にすべてを実践しようとしなくて、できるところから

やれば十分です。現在の状況が永遠に続くわけではありません。それぞれの方法で現在を乗り越えてほしいと思います。

不安は一人で抱え込まず、 学生相談室に気軽に相談を

福野:菊池さんは水泳部に所属しているということですが、練習時にはどんな感染症対策をとっていますか？

菊池:ウエイトトレーニングなどでは、グループに分かれ少人数でやるようにしています。

福野:体育会系の部活動の場合、ロッカールームなど3密になりやすい環境では十分な注意が必要です。本格的な練習が再開された後も、3密の回避と感染防止のための基本をしっかり守ってほしいと思います。

菊池:わかりました。一人ひとり自覚を持って活動していきたいと思っています。

福野:最後に学生相談室について少し紹介させてください。学生相談室では公認心理師や臨床心理士の資格を持ったカウンセラーや兼任カウンセラーの教員がみなさんの相談に応じています。相談内容について秘密が厳守されるのはもちろんです。友人・家族との関係や他者とのコミュニケーションでのつまづき、心理的

な不安など何か問題を感じた時は、自分の中に抱え込まず、それぞれのキャンパスにある相談室をぜひ訪ねてほしいと思います。今日は貴重なお話をお聞かせいただきありがとうございました。

困った時は

学生総合保健支援センター(学生相談室)



開室時間：月曜日～金曜日の午前9時～午後5時
(但し、礼拝時間は除く)

予約方法：

- 来室する場合：各受付窓口においでください。
- 電話する場合：下記にお電話ください。
土樋キャンパス：TEL.022-264-6410
多賀城キャンパス：TEL.022-368-1326
泉キャンパス：TEL.022-375-1186

※完全予約制です。
※相談は無料です。
※相談内容についての秘密は固く守ります。

WEBでセンターの
紹介(動画)を公開中!



学務部より

コロナに負けない学院大の授業

学務部長 加藤 健二

本学は、今年度前期、全授業を遠隔授業として実施いたしました。

遠隔授業に詳しい教員を中心にサポートチームを組み、まず、PCや通信環境に関する学生・教員の準備状況調査から始まり、学生向けPC・ルータ貸出、学生向け・教職員向けの授業ガイド作成、Zoom(遠隔会議システム)の導入、相談窓口設置など、急ピッチながら教職員挙げて充実した実施体制を構築しました。

この間、保護者の皆様から様々な声が寄せられました。「学費に見合うだけの授業がなされているのか」という声もありました。しかし、他大学ではレポート課題を指示した紙が配付されるだけといった授業が問題になっていた中、本学では多くの教員が徹夜をしてでも最善の視聴覚教材を提供しよう、一方通行にならない授業を工夫しようと頑張った結果、学生アンケートの

結果を見てもかなり充実した授業を提供できたと自負しております。むしろ、一部の学生からは、授業内容やレポート等の課題が多過ぎて勉強時間が長くなり過ぎるといった悲鳴が聞こえて来ました。本来の大学生の姿に近づいてよかったという教員の声もありますが、やはり学生の過度な負担にならないよう注意も必要と考えています。

後期からは、可能な限り対面授業も実施されます。対面授業と遠隔授業を併行して実施するのはとても難しいことです。しかし、対面授業を受けたいというのは学生の要望でもありますし、場を共有して話し合っこそ得られるものがあることも確かであり、3密にならぬよう最大限の注意を払いながら、充実した授業を提供したいと考えております。

学生部より

新型コロナの中で、近況報告

学生部長 千葉 智則

9月17日より後期授業が一部対面を含め始まりました。9月14～16日にはZoomという遠隔会議システムを用いて後期新入生オリエンテーションを実施いたしました。本学では学科ごとに約50～60名を一つのグループとして、グループ主任と呼ばれる専任教員、さらにリーダーと呼ばれる各学科の先輩学生がグループの担当者として、様々な面から新入生のサポートを行っております。今回、宮城県内の感染者増加傾向という状況もあり、対面ではなく遠隔という形のオリエンテーションではありましたが、新入生はグループ主任そしてリーダーとともに交流を深めることができ、後期の大学生活に対する不安もある程度解消できたものと思います。

課外活動については、本学の新型コロナ感染対策ガイドラインを定め、6月より段階的に活動を再開しており、秋季に予定されている公式戦あるいは全国大会出場に向けて各団体の

活動もより本格化してきたところです。9月11日の日本学生陸上競技対校選手権大会(新潟)を皮切りに、仙台六大学野球秋季リーグ戦、全日本学生アーチェリー王座決定戦(大阪)など、例年通りの大会参加が予定されております。学生たちは、感染対策が求められる中での活動に苦慮しているようですが、今年が学生最後の年となる4年生を中心に活躍してくれることを期待しております。

最後に、本学では新型コロナによって経済的に支援が必要になった学生のために独自の給付奨学金制度を設けております。下記のURLでご覧いただけますので、一度ご確認くださいませと幸いです。

奨学金のご案内

<https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/campuslife/scholarship/>



就職キャリア支援部より

学生一人ひとりの就職・進路のために

就職キャリア支援部長
武田 三弘

就職キャリア支援部では、学生が就職活動に入る際に慌てないよう、低学年時からキャリアアップ講義の開講や、各種ガイダンスの実施を通して指導を行っております。一例として、1年次には自分を知るためのコンピテンシー診断、2年次には職務適性テスト、3年次にはTGインターンシップの実施です。多くのガイダンスなどを通して、就職試験を受ける前に「社会人基礎力」を身に付ける努力をしております。

しかしながら、今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、対面式のガイダンスやセミナーを中止にせざるを得ない状況となりました。この様な状況下においても、就職キャリア支援部では、インターネットを活用した様々な取り組みで就職支援サポートを行っております。

例えば、大学に来た求人情報は、教育支援サービスmanabaから調べることが可能であり、就職相談については電話でも

対応しております。また、面接練習として対面式だけでなく、Zoomによるweb面談の実施も行っております。東京方面も含め、感染予防の観点から企業説明会に参加できない学生に対しては、webによる企業セミナー(8月末で102社)の実施も行っております。さらに、保護者の皆様にも、我々の指導内容や現状の就職状況、或いは保護者の皆様の就活に関する疑問や悩みなどの情報交換をできる場として、例年11月以降に開催している「保護者のための就職セミナー(就職懇談会)」についても、webによる実施を検討しております。

新型コロナウイルス感染症により、活動が制限される中でも、我々は就職を希望する学生全員が希望の職業に就けるよう、これからも支援を続けていきますので、ご活用の際、宜しくお願い致します。

INFORMATION

後援会の主な事業・助成のご紹介

後援会総会、大学開放プログラム、地区後援会の実施

東北学院大学後援会資格取得報奨制度

体育会、学生会、文化団体連合会等の課外活動団体への助成

就職活動に対する助成

東北学院大学各種奨学金への助成

「保護者のための大学ガイド」、「グロース(春・秋)」、「カレンダー」の発行

学業優秀者への記念品贈呈

施設賠償責任保険への加入

ホームページのご案内



後援会の最新情報や、後援会総会、地区後援会のご案内などを、随時更新いたします。



<https://www.tgu-kouenkai.org/>